

Supported by:



Organised by:



LNG SUPPLIES FOR ASIAN MARKETS (LNGA) 2018

Lower For Longer: Implications For Asia's LNG Business

28 February – 1 March 2018 * Singapore

Press Clipping
NNA - 28 February 2018

LNGの短期契約拡大見込む 国際会議、需要拡大に期待

世界的に液化天然ガス（LNG）の需要が拡大する中、今後はより柔軟性の高い短期・少量契約が増える

——。シンガポールで3月1日まで開催中のLNGの国際会議「LNGサプライズ（Supplies）・フォー

アジア・マーケット」（LNGA）で、シンガポール政府関係者からこのような見方が示された。会議で

は、流動性が高く柔軟な取引市場を構築する重要性も指摘されている。

LNGAは今年で13回目。観光地セントーサ島の会場には、会期中に世界約20カ国・地域から約200人の政府、業界関係者らが集まる見込み。

東南アでは発電業界で需要拡大

初日の2月28日に開会のあいさつに立ったシンガポールのS・イスワラン通産相（産業担当）は、LNG業界を取り巻く環境やシンガポールの取り組みを紹介。

「世界のLNG需要は2017年に前年比10%増の2億8,500万トンとなり、18年はさらに10%伸びる見込みだ」と説明した。アジア地域が世界のLNG市場の成長をけん引し、東南アジアでは発電業界を中心に需要拡大が続くとしている。今後は数年以内にカタールやオーストラリア、米国でLNGの供給源が増える見通しだが、原油価格の下落が長引けばLNGの需給動向に影響を与えると予想。LNGの契約形態も、長期契約より柔軟性の高い短期契約が増えるとの見通しを示した。

同相によると、こうした中、シンガポールではエネルギー市場監督庁（EMA）が先ごろ、国内輸入業者にスポット契約（随時契約）を認める措置を導入するなど、業界の動きに対応する取り組みを進めている。西部ジュロン島のLNGターミナルを運営するシンガポールLNGコーポレーション（SLNG）は、17年にLNGの小分け輸送に対応するトラック積載設備を開設。タンク

容量が2,000立方メートル程度の小型船舶が離着岸できるよう棧橋の改修工事も進めているという。

流動性の高い取引市場構築を

日本の経済産業省資源・燃料部の佐々木雅人氏は「LNGに焦点を置いた日本のエネルギー政策」と題して講演。同省が16年に発表した「LNG市場戦略」を中心に説明した。日本は世界最大のLNG輸入国で、天然ガスは今後も重要なエネルギー源であり続けると強調。将来の目指すべきLNG取引の姿として、長期契約は必要最小限とし、流動性の高い取引市場からの調達を推進したいと話した。世界各国・地域とも連携し、柔軟な取引市場の構築を促すことで、日本は安定的かつ低コストでLNGを調達できるとしている。

このほかLNGAでは、英・オランダ資本の石油大手ロイヤル・ダッチ・シェルや米石油大手エクソンモービル、オーストラリアの石油・ガス開発会社オイルサーチなどの担当者が登壇。シェルのLNG担当者は、「世界的に環境保護規制を強化する動きが広がる中、環境に優しい天然ガスは再生可能エネルギーを補完する役割を担う」との見解を示した。20年から世界的に船舶燃料の

2018年(平成30年)3月1日(木) The Daily NNA シンガポール&ASEAN版【Singapore & ASEAN Edition】 第05676号 [1]

【ASIA】www.nna.jp/ 【EU】www.nna.eu/ Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます

硫黄分濃度規制が強化され、硫黄分を含まないLNGに燃料を切り替える動きが加速するなど、ガスは世界のエネルギー市場で重要な役割を担うという。一方で、「長期契約を好む供給者と、短期・少量契約を求める購入者の間でミスマッチが生じる」リスクも指摘。供給側は長期的な展望に立ってインフラ投資を進める必要があると強調した。

エクソンモービルの担当者も、「持続可能なLNG市場の確立には、供給側が需要動向を的確につかむ必要がある」と話した。

このほか会場では、来場者を対象に行ったアンケート結果が即時公表された。国際LNG市場は需給が緩和した状態が続いているが、「市場の需給バランスの均衡が取れるのはいつごろか」との問いでは、「22~23年」と予測する来場者が最も多かった。